



■ 実践によって得られた成果：

- 4歳児、5歳児とも、観察シートを園で回収したことにより、各家庭での栽培の仕方の違いや調理方法等、様々な取り組みの違いを知ることができた。
- 観察ノートを子ども同士で見せ合うことで、「自分のトマト」への愛着が一層深まった。
- トマトや野菜が苦手な子どもがトマトの生長を知ること、「自分で育てたのはおいしかった。」「野菜のおいしさがわかった。」という声も聞かれた。
- 収穫できなかった家庭では「野菜を育てることの難しさを実感した。」など、親子で会話を楽しみながら、「家庭での食育」を実践するきっかけとなった。

■ モグモからのメッセージ：



幼児期の栽培体験は、「食の成り立ち」を知る上でとても有意義なことなんだけど、初めて野菜を育てたお友達も多いと思うけど、おうちの人や、お友達といっしょに一生懸命お世話をしたことで、「凜々子の命」を感じられたんじゃないかな。みんなの様子が、「観察記録ノート」からよ〜く伝わってきたよ！  
下の作品は、カラスから「凜々子」を必死に守ろうとしてくれたのがわかるね。幼児期ならではの、家庭と上手に連携したすばらしい取り組みに拍手！

かんざつきろくシート

8月 7日(火)	な
てんき	☀️ ☁️ 🌧️

ここにっついてあるのは

まじって・ハムには  
きいろのビニールぶくろ

カラスは  
おげんき

カラスがら  
まもっています。

まんな中は  
アーさん

ようきえんの  
うんじょうがいて  
もらった  
バケツ

ようきえんには  
きいろの  
（アワ・ヘッド  
おなべ  
アハル）

きいろのしりとりをサッポロは、まじってまわりのカラスに  
まもっていました。（カラスはきいろのしりとりをまじって  
まもってまもるが、サッポロはまもりました。）

（おついでこと）  
とまとが、とても、あがくは、た、カラスに  
たべられたりしないように、カラスの、きいろの、  
まじりを、たくさんまわりにあいたよ。